

I 概況

1 内政

- 15日、「情報通信省」が「通信省」に改編され、「情報通信省」が担っていた企業的な機能は「キューバ郵便企業グループ」と「情報通信企業グループ」に委譲された。
- 15日、閣僚評議会拡大会合が開催され、外務省の組織編成に関する検討の主要事項や2012年の会計収支等につき説明・報告等された。

2 外交

- チャベス・ベネズエラ大統領逝去を受け、6日、当国政府は弔意を表明する公式声明を発出した他、6日～7日を公式服喪、8日を国家服喪とすることを決定し、各県首都においてチャベス大統領追悼行事が行われた。
- 当地で行われた第1回デジタルテレビ国際フォーラムにおいて、中国 Wu Hao 産業・先端技術発展改革国内委員会副委員長は「北京はハバナにおいて中国のデジタルテレビ方式の試行を終えつつあるところであり、右方式を実施できるようキューバ及び他のラ米諸国に支援を提供するであろう」と述べた。
- 22日、第4回キューバ・モンゴル政府間経済・科学技術協力委員会が開催され、モンゴル政府はキューバの対モンゴル債務を免除することを発表した。

II 内政

1 省庁再編（情報通信省の名称・権能の変更）（往電第248号）

15日、閣僚評議会は「情報通信省」の名称を今後は「通信省」に変更すると共に、これまで「情報通信省」が担っていた企業的な機能を「キューバ郵便企業グループ」と「情報通信企業グループ」に委譲することを決定した。また、情報科学大学の高等教育省への移管、電気産業の産業省への移管を進めるための整備、地方に通信省管轄の事務所を創設し、右地方事務所に一定の権限を与える等の措置が執られた。

2 閣僚評議会拡大会合の開催（往電第268号）

15日、閣僚評議会拡大会合が開催され、国家中央行政機関の改善の一環として外務省の組織編成に関する検討の主要事項や2012年の会計収支について説明・報告されたほか、投資を中心とする2013年の経済計画の修正等が議論された。

3 新たな祝祭日の制定（往電第284号）

18日、キューバ政府は29日（金）を祝祭日（聖金曜日）とすることを発表した。

4 キューバ労働者連合全国評議会第92回会合の開催（往電第289号）

23日、キューバ労働者連合(CTC)全国評議会第92回総会が開催され、バルデス CTC 事務局長が先般国家評議会副議長に選出されたことに伴い CTC 事務局長の役職から解任されることとなった。カルメン・ロサ・ロペス CTC 事務局次長が11月の CTC 第20回大会まで同次長職を担い、同20回大会で CTC 幹部が選出される予定。

5 ニッケル産業（往電第303号）

2013年のキューバにおけるニッケル及びコバルトの生産は約6万2千トンが見込まれると報じられた。

6 経済社会モデルの現代化プロセス（往電第309号）

26日、2012年の国内流通省の活動を評価すると共に2013年に同省が取り組むべき課題を議論するための会合が開催され、同会合においてムリージョ閣僚評議会副議長は、建設資材の販売プログラムの強化、農業以外の協同組合の創設を通じた建物のメンテナンス・サービスの拡大、卸売流通網の改善等、更なる努力が必要であり、また省エネプログラムの持続的改善等も重要であると述べた。

III 外交

1 「5人の英雄」に関する外務省非難声明（往電第201号）

1日、米国国務省員が在米キューバ利益代表部による「5人の」英雄のレネ・ゴンサレスとの領事面会申請は相互主義に基づき却下されていると発言したことが報じられたことに対し、当国外務省は、在キューバ米利益代表部は制限区域外への領事面会についても許可されており、相互主義という却下理由は成立しないという非難声明を発出した。

2 チャベス・ベネズエラ大統領の逝去（往電第217号、同第221号、同第227号及び同第240号）

(1) 6日、当国政府はチャベス・ベネズエラ大統領逝去に対する弔意を表明する公式声明を発出した。

(2) 国家評議会は6日～7日を公式服喪、8日を国家服喪とすることを決定した。

(3) 7日、各県首都においてチャベス大統領追悼行事が行われた。

(4) 7日、ラ米カリブ諸国共同体(CELAC)はチャベス大統領逝去に対する弔意コミュニケを発出した。

(5) 7日、ラウル・カストロ国家評議会議長はブルーノ・ロドリゲス外相及びポランコ駐ベネズエラ・キューバ大使と共に、チャベス大統領の葬儀に参列するためカラカスを訪問した。

(6) 11日、フィデル・カストロ前国家評議会議長はチャベス大統領逝去に関する「我々は最大の友人を失った」と題されたメッセージを発出した。

3 ファル・ギニア外相の当国訪問（往電第225号）

4日、ブルーノ・ロドリゲス外相は当国を公式訪問中のファル・ギニア外相と会談した際、今次訪問は両国の外交関係を強化する良い機会であると述べると共に、AUとの関係強化はCELACの最優先事項の一つになるであろうとも述べた。

4 新ローマ法王フランチェスコ世の就任（往電第241号及び同第277号）

(1) 14日、新ローマ法王フランチェスコ世の就任に際しラウル・カストロ議長発新ローマ法王宛祝辞が公表された。

(2) 19日、ディアスカネル国家評議会第一副議長はキューバ代表団の首席代表としてフランチェスコ世のローマ法王就任式に出席した。

5 ラウル・カストロ国家評議会議長発習近平中国国家主席宛祝辞（往電第246号）

15日、ラウル・カストロ国家評議会議長発習近平・中国新国家主席宛の祝辞が公表された。同様に、ディアスカネル国家評議会第一副議長発李源潮国家副主席宛祝辞も公表された。

6 デジタルテレビに関する中国の協力（往電第279号）

(1) 当地で行われた第1回デジタルテレビ国際フォーラムにおいて、中国 Wu Hao 産業・先端技術発展改革国内委員会副委員長は「北京はハバナにおいて中国のデジタルテレビ方式の試行を終えつつあるところであり、右方式を実施できるようキューバ及び他のラ米諸国に支援を提供するであろう」と述べた。

(2) 当地で行われた第15回国際情報会議・見本市ではHaier, ZTE, Huawei 等中国が最大のプレゼンスを示し、それに続いたのがスペイン及びイタリアであった。

7 米国側査証手続きに関する米利益代表部総領事のインタビュー

米利益代表部総領事は当地紙とのインタビューにおいて、キューバ側移民法改正を歓迎するもキューバ人による米国訪問に係る査証手続きを含む米国移民法に変更はない旨発言した。

8 キューバ・モンゴル第4回政府間経済・科学技術協力委員会の開催（往電第288号）

22日、第4回政府間経済・科学技術協力委員会が開催され、モンゴル政府は、1990年までの二国間貿易に基づくキューバの対モンゴル債務（報道によれば約80万ドル）を免除することを発表した。

9 フィデル・カストロ前国家評議会議長発モラレス・ボリビア大統領宛書簡（往電第294号）

フィデル・カストロ前議長はモラレス・ボリビア大統領に対しペルー・チリ領海境界線画定問題に関しボリビアを支持する旨の書簡を公表した。

10 フォークランド(マルビナス)諸島領有権問題に係るアルゼンチン支持(往電第305号)
26日、ブルーノ・ロドリゲス外相は国連で行われた記者会見にて、CELACはアルゼンチンのマルビナス諸島に係る領有権を支持する旨表明し、アルゼンチン及び英国が平和的かつ最終的な解決策を早急に見出すための交渉を再開することに期待している旨述べた。

11 ラージャパクサ・スリランカ国会議長の当国訪問(往電第313号)
27日、ラージャパクサ・スリランカ国会議長は当国を訪問し、ディアスカネル国家評議会第一副議長及びラソ人民権力全国議会議長と会談した。

12 要人来訪

(1) ファル・ギニア外相(4日)(往電第225号)

実務訪問。ブルーノ・ロドリゲス外相と会談。

(2) Prakash Karat インド共産党書記長一行(26日)

バラゲール・キューバ共産党中央委員会国際関係局長他と会談。

(3) ラージャパクサ・スリランカ国会議長(27日)(往電第313号)

実務訪問。ディアスカネル国家評議会第一副議長及びラソ人民権力全国議会議長と会談。

13 要人往訪

(1) ラウル・カストロ国家評議会議長のベネズエラ訪問(7日~9日)(往電第227号)

ブルーノ・ロドリゲス外相及びロヘリオ・ボランコ駐ベネズエラ・キューバ大使と共に、チャベス大統領の葬儀に参列するためカラカスを訪問。

(2) ベルナル文化大臣のスリナム訪問(14日~15日)

第1回 CELAC 文化大臣会合に出席。

(3) ディアスカネル国家評議会第一副議長のバチカン訪問(18日~19日)(往電第277号)

ディアスカネル国家評議会第一副議長はキューバ代表団の首席代表としてフランチェスコ1世のローマ法王就任式に出席。

(4) ブルーノ・ロドリゲス外相の国連本部訪問(26日)(往電第305号)

国連で行われた記者会見において、ブルーノ・ロドリゲス外相は、CELACはアルゼンチンのマルビナス諸島に係る領有権を支持する旨表明。